

杏林大学高大連携 連続セミナー

高校生への英語の教え方・自己研鑽セミナー

(Zoom を利用したオンラインセミナー)

杏林大学外国語学部英語学科

杏林大学外国語学部英語学科では、高等学校で英語を教えられている先生方と一緒に「英語の教え方・学び方」について考える機会を設けました。本学の教員が英語学や英語教育学の観点から情報を提供し、質疑応答をしながら意見交換を行います。

2022 年度より新しい高等学校の学習指導要領が年次進行でスタートしました。特に『論理・表現』といった科目の新設もあり、実際に教科書を執筆した本学教員から、そのコンセプトなどについてお話させていただきます。また、科目名称が変更されてはおりますが、英語という言葉が変わるわけではありません。「音声」「読解」などの指導や教員のスキルの高め方をお伝えいたします。時間の許す限り、英語学、言語学の知見を生かした「明日から授業に使えるヒント」と、「英語教員としての自己研鑽のヒント」になるような情報を提供いたします。

費用： 無料

参加資格： 高等学校にて英語を教えている教員（専任・常勤・非常勤問わず）

参加条件： Zoom をインストールした機器を有していること

受講の注意： 本セミナーの内容についてまとめたものや、映像、音声を録画・録音すること、ウェブサイト等で公開することを禁じております。すべての著作権は杏林大学外国語学部にあります。

講座実施日および、講座担当者（講座一覧は別掲）

2022 年 5 月 24 日(火)18:10～19:10	倉林秀男
2022 年 6 月 7 日(火)18:10～19:10	坂本ロビン
2022 年 6 月 21 日(火)18:10～19:10	八木橋宏勇
2022 年 7 月 5 日(火)18:10～19:10	北村一真
2022 年 7 月 12 日(火)18:10～19:10	Jackie Talken
2022 年 7 月 19 日(火)18:10～19:10	岩本和良

申込方法

以下の URL・QR コードから表示される画面上で、受講したい講座を選択し、所定の項目にご記入ください。追って、高大接続推進室より登録いただいたメールアドレス宛に Zoom の情報をお伝えいたします。

<https://forms.office.com/r/LKsZ0BZigL>



< 講師・講座一覧 >

倉林秀男

講義テーマ：文学作品を使った英文法の学習について（倉林秀男）

概要

文学作品を題材にすると「英語が読める」ことが「物語の内容に自分自身が入っていきける喜び」に変わる瞬間があります。

特に優れた作品を使うと、生徒たちは伏線の回収場面で「あ～、なるほど。そういうことね」と腑に落ちる瞬間や、題材について生徒同士自由に語り合いながらともに学び合う場面が生まれてきます。こうした学びを通して、英語の表現技法や文法についての知識も深められるような「シンプル」な授業を行うための一例を、オスカー・ワイルドの「幸福な王子」を通してお示しいたします。

主な著書

『英文解釈のテオリア』（Z会）、『ヘミングウェイで学ぶ英文法』（アスク出版）

坂本ロビン

講義テーマ：「論理・表現」の授業の組み立て、そして教材の狙いについて

今年度より高等学校で実施される「論理・表現」の授業について戸惑うことが多い先生方もいらっしゃると思います。そこで、この講義では「論理・表現」の編著者の一人として、授業のヒントを示しながら、どのように教科書を使えばよいのかについてお話します。

主な著書

高等学校の検定教科書「論理・表現」『Genius English Logic and Expression』（大修館）
中学校検定教科書『New Crown』（三省堂）

八木橋宏勇

講義テーマ：高校教員のための英語コーパス入門

概要

「実用的な英語」へのニーズがますます高まっています。「実用的」というと、英語母語話者による指導が真っ先に思い浮かぶかもしれませんが、私たち非英語母語話者にできることもあります。たとえば、「別れ際に何と言いますか？」という問いに対して、英語母語話者の多くは"See you"や"So long"といった回答をすることが知られていますが、コーパス（実例のデータベース）を検索すると、大人であったとしても"Bye-bye"が圧倒的に多いという事実が分かります。ほかにも、実例を見ることで「類義語や語法パターンの使い分け」、「自然なコロケーション」なども確認することができますから、コーパスは英作文指導や入試問題分析の強力なツールになると見込まれます。本講義は、杏林大学外国語学部の「コミュニケーション概論」や「英語学」で行っている講義内容をもとに、コーパスを実際に見ていただくことで「実例を見る眼」の入り口にご案内いたします。

※時間が許せば、コーパスを「論理・表現」の指導に活用する方法にも言及いたします。

主な著書

『実例で学ぶ英語学入門―異文化コミュニケーションのための日英対照研究―』（朝倉書店）
「英語ライティング指導におけるテンプレートの活用：日英語の好まれる談話展開とその内在化」（『杏林大学外国語学部紀要』）

北村一真

講義テーマ：新聞、ニュースの英語を読む

概要

インターネットを通じて、英字新聞の記事や英語のニュースなどに触れる機会が増えていますが、時事英語には一定の決まり事や固有の表現があり、その知識の有無で理解できる度合いも変わってきます。

本講座ではそういった時事英語の特徴を紹介し、ネット上の英語メディアをより楽しむためのきっかけを提供できればと思います。

主な著書

『英文解体新書』（研究社）『英文解体新書 2』（研究社）、『英語の読み方』（中公新書）

Jackie Talken

講義テーマ：Fluency Training

概要

How can we bring more active learning into the language classroom? In the quest to pass entrance exams or other standardized tests, the fundamental purpose of language can be easily forgotten. That purpose is communication and the sharing of ideas. One way to remind

learners of this and to provide opportunities for them to use the grammar and vocabulary they have learnt is by doing fluency training.

Learners engage in fluency training for each of the four skills on a regular basis, track their progress, and receive ongoing feedback and encouragement from their teachers. During both input and output, they have a chance to use whatever language they have already encountered, no matter the level.

In course feedback surveys, learners very often comment about how useful and enjoyable this part of the lesson was for them. They say it not only gives them more confidence in using English but also provides a chance to bond with their classmates. I hope you will also find it a useful strategy in your own classrooms.

主な論文

Talken, J. (2021). Sayonara to the Monolingual EFL Classroom, *Accents Asia*, 14(1), 1-10. Available from: <http://www.issues.accentasia.org/issues/14-1/Talken.pdf>

Talken, J. (2019). Action Research with Junior High School Students: Creating a Supportive, Collaborative Learning Environment. *Learning Learning*. Available from: <http://ld-sig.org/wp-content/uploads/2019/10/talken.pdf>

岩本和良

講義テーマ：音声教材の落とし穴 – より効果的な音読練習に向けて–

概要

英語の授業では、教科書付属の音声教材を用いて内容把握、コーラスリーディング、シャドーイングなど様々な活動がなされるでしょうが、その音声教材に疑問を持ったことはありますか。英語母語話者、それもプロの声優さんが録音していますし、文部科学省の検定を受けている教材であれば、それを「正解」と捉えてしまうのも当然でしょう。しかし、学習者用の教材という性質上、その言い方は不自然に、時には不適切になっていることもあります。イントネーションシステムは文法的で、言い方によって言葉遣いを変化させる言語資源であり、一つの「正解」と考えるよりも、どのような意味を伝えたいかで使い分ける選択肢として捉えるべきでしょう。本講義は、杏林大学外国語学部の「英語学特論」や「英語学演習」における講義内容をもとに、英語のイントネーションシステムの概略と、より適切に、そして効果的に音読練習させるポイントをお伝えします。

主な著書

高等学校英語副教材『Listen for It! #2 Ear Training through Dictation』（いいずな書店）